

第1回 伊勢市農村振興基本計画策定委員会 議事概要

1. 日時：令和4年8月3日（水）14：00～15：10
2. 場所：伊勢市御園総合支所2階 2-4会議室
3. 出席者：委員／三島、大西、坂口、村田、山口、西村、澤田、奥野、北村
事務局（伊勢市）／宮本、野中、小林、山中、西村
（株）サーベイリサーチセンター／長谷川

4. 協議

(1) 開会の挨拶

事務局である農林水産課長の進行により、産業観光部理事が開会の挨拶を行った。

(2) 委嘱状の交付

伊勢市農村振興基本計画策定委員会の委員として、市から委嘱状の交付を行った。
その後、委員から自己紹介を行うとともに、引き続き事務局の紹介を行った。

(3) 委員長、副委員長の選出

委員長及び副委員長の選任を行い、委員長に三島委員、副委員長に澤田委員が選任され了承された。

(4) 諮問

産業観光部長から諮問書の内容を読み上げ、委員長に手渡した。

(5) 委員長あいさつ

委員長から改めてあいさつを行った。

(6) 伊勢市農村振興基本計画の中間見直しについて

(1) 伊勢市農村振興基本計画の中間見直しについての協議

委員長の進行により、事務局から事項書「6. 伊勢市農村振興基本計画の中間見直しについて」「(1) 伊勢市農村振興基本計画中間見直しにかかる背景、(2) 中間見直しの考え方」について説明があった。

(7) 質疑応答

- ここまでの説明について、何かご意見、質問等があればお願いしたい。ざっくばらんなご意見を頂ければと思う。
- 個人で農業をやられている 70 歳前後の方で後継者がおらず、草が生えている状態になっている。計画を組むのは良いが、担い手なり、伊勢に農業をやっていく人がいるのか危惧している。自分の地区もそうだが、草が生えているのが現状でトラストファームに頼んでも受ける余裕が無い。肥料についても 2,000 円台の物が来年には 5,000 円になる。そんな状態でこれから先、本当にやっていけるのかどうか。水稻の値段がこれだけ安かったら難しい。
- 今、発言されたことはごもっともだと思う。小俣地区は土地改良区に一生懸命考えていただいて、できるだけ担い手さんがやりやすいように考えていただいているところだと思う。先ほど言われていたように、今やっている方が亡くなられて、担い手さんに集中しすぎるとそれはそれで何かあった時に大変。何をしたらよいかなかなか難しいが具体的に何をするか考えていきたい。
- 後継者問題、担い手問題は大きな問題で、どこの地域でも課題にあがっていると思う。特に後継者になりづらいのは農業における収入の問題が根底にある。現在の社会の仕組みもあると思う。農業で成功している方もいる。今回の見直しの中に入れるのは難しいかもしれないが、成功するような方が出てくるような環境を整えるのが行政の役割でもある。引き続き集めながら情報の共有をしていきたい。是非、皆さまのお知恵を頂ければと思いますので、よろしく願いいたします。
- その他にご意見があれば。
特に新しい言葉として、いわゆる農業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）、ICT化が進んでいき、色々な物が利用できつつある。具体的に農家がどういう形で利用することにより、現在の農業経営にプラスになっていくかということを考える必要が当然出てくると思う。最近ではトラクター等の農業機械ではなく、小型のドローンを使って肥料や農薬を撒くなど随分と具体化して進められているようですが、伊勢市の農家に対してどういうメリットを享受することができるのか。見直しのところから新しくきっかけや取組ができると5年後には随分と進んでいると思うのでその選定ができればと思う。
また、後半のところ書かれていた獣害対策など、喫緊の課題として様々なところで抱えられている問題だと思うが、時系列は異なるが、是非、見直しの中でご意見をいただければと思う。

- 今回の見直しの中で何かこういうポイントを入れていただければというご意見があればお願いします。
- スマート農業の一例として、令和2～4年くらいの市の補助金の中でも、令和2年の大きい法人にドローンの補助をした。そのドローンは、小麦をメインに肥料の散布をされていると聞いている。令和3年にはGPS付の田植え機を導入。一般的な田植え機は植える時に歪んでしまうが、GPSがついていることによる正確性がかなり上がったと聞いている。令和4年についても収量コンバイン、その場でモニターに何キロ取れたかわかるもの。一応、ICTと言われるような機械になっている。そういう機械を利用して、肥料の分量など見直すような話も出ている。そういった話は入ってきている。
- おそらくそういう事例の情報自体の周知活動等ができていくと、自分たちがどんな風に取り組めるかということが見てもできると思うので、今後考えていく必要が出てくるかもしれない。すでに補助金を使ってICTの機器の導入ができるということは農家にとってメリットだと思う。多くの農家ではそういう物を使って普段の業務がどれだけ減るのか非常にわかりにくいところでもある。
田んぼはなかなか難しいが、畑の草刈りで随分無人機が出てきたと聞いている。就労者の方にとって補助管理に力を入れて、草刈りの時間を削減できるということも当然出てくると思う。特に小規模な農家の方に対してメリットを享受していただく必要がこれから出てくると思う。なかなか高価な機械なので難しいかと思うが何か新しい仕組みを入れることによって、共同での使用や初期投資費用を安価にする等の仕組みを将来的に考えていくことができれば小規模農家にもメリットになるのではないか。その辺りのこの地にあった仕組みを考えていく必要が出てくると思う。様々な事例を伊勢市の中で拾い上げて、今回の基本計画の後半部分に書き記すことができれば非常に良い資料となるのではないか。
- 先ほど言われた共同利用のところ、組合員向けで機械の貸し出しをやっていると思います。農機の貸し出しは多いのでしょうか。
- 草刈りのモアの利用が多い。モアだけ。あとは機械を買っただけで利用されていない。
- そういう所にラジコン草刈り機等を入れると借りてくれるのか。
- 非常に重要な視点だとはわかっているのですが逆に機械化をそういう形で使用するとほ場整備というのが必要となってくる。途中で溝があったりすると人の作業が必要で

自動化できない。そういう補助整備がICT化する時に事前に準備が必要となってくる可能性が出てくる。

半自動の無人草刈り機が安価で出てきている。ICTまではいかなくても、リモコン型の草刈りロボットも更に安価で出てきている。モアは動かすだけで暑くて大変。日陰でリモコンで草刈りするだけで相当農家の方の負担も減ると思う。場合によってはテストも含めてやっていかなくてはいけないのではないか。

- 伊勢市の農村振興基本計画以外に食育推進計画を策定している。その中で農林の分野としては、小学生に農業体験として田植えや稲刈りをしてもらい、農家の大変さ、職業の大切さを学んでもらっている。農家が大変だというイメージを持ってもらう中で、時代と共に農業も近代化しており、ドローンやスマートシティや色々なところで取り組んでいるというところを見せることによって、農業へのあこがれや魅力的な物も発信できたらいいなと思った。公表された基本計画を子どもたちが見て、伊勢市の農業の取組をみることで、機械化によって憧れを持ってもらえるような形にできればいいなと思う。
- 中学校での就業体験等で農作業に携わってもらっているが、農業が大変だということはすぐに伝わるが、農業をやっていて楽しいということは伝えることは可能。職業として選んだり、後継者になることを考えると収入的に安定が得られるかどうか。休みが取れるのかどうかは小規模農家では難しい。
例えばネギの生産に力を入れていて、機械化も進んでいるということを伝えることができれば、就業体験等で理解してもらえる可能性も出てくる。伊勢市の農業として伝えていくことが大事になってくる。
田んぼに関しては、実は一番機械化が進んでいると思う。小麦以外に関しては何か機械を入れてできるという印象がない。まず成功している農家の事例を集めて知ること、そこから後継者、希望者に知ってもらうことができると、農業に対する受け止め方が変わってくると思う。
- 学校で農業の勉強をしても農業には携わっていない。
- 農学系の大学に勤めているが、卒業生が農業に従事している事例が少ない。逆にいうと何人かはコンスタントに入っている。入っている卒業生は後継者として入っている人はほとんどない。農業法人に入る人や会社形態に入る人が多い。自身の研究室にいた一人はトマトの施設栽培の会社に入り、農業技術を学んでいる。もう一人は柑橘系の会社ですが、そこは様々な商品開発をしていて地域でリーダー的な農業をされている。そういうものは大学生にも仕事として興味を持ってもらえるのだと思う。
担い手や家業を継ぐという考え方が減っているという現状は否めない。収入、労働環

境の問題等を少しでも改善するためにICT等の技術を使う。人のやりたくない所はできるだけ新しい技術を取り入れ、人が興味を持つところはきちんと伸ばす。中々、一筋縄ではいかない。

行政でできることとして、補助金やサポートができるか。機械の貸出しや農業に関するノウハウ、販路などで協力ができてくると少しでも解消できるのではないか。そういうことを議論しながら意見をいただければと思う。

- 最近のイチゴ作りに関しては、地元というより県外の方が作っている。特に米作りは担い手も余裕が無く厳しい。米価が安いこともある。機械化が大分進んでいるが、土日はしっかり休みたいという方が最近多い。そういう方をこちらに向けてるのは難しい。
- 自身は実家が喫茶店をやっていたので、土日を休みたいというのはなかった。三次産業に携わっている家庭ではなかなか感じないのかもしれないが、二次産業では土日しっかり休んで、最近では有休消化率という話もでてきている。一次産業でも現実的にそういうことができればよい。逆にそういうことができる農業というのは、その中には2日間休むということができない。ある程度のグループで片方が土曜日休み、片方は日曜日休み。企業では土日の給料を上げることによって平日休みの人と収入による差をつけて積極的に働いてくれる人を集める。農業の場合は何か工夫、仕掛けが必要になってくると思う。場合によっては、後継者はいないがその農産物が非常に良いものとなった場合、県外の方も含めて後継者として受け入れた場合に、どちらもリスクの低い形で受け入れることができるのであれば農業従事者として増やすことができる。そういうものがシステムとして動けば農業をやりたい方の人口流入を考えることができるのかもしれない。自身で何ができるのかの答えは持っていない。こういうことは時間をかけながら議論を途絶えさせないことが大事。委員会の中でもご意見を続けていただければと思う。
- 7月の第1土曜日に三重県農林水産支援センター主催の農業、漁業、林業の就業フェアに初めて出させてもらった。昼間3時間ほどでしたが、伊勢市の若い方や転職を考えたいという方が3名相談にみえた。漁業と林業はなかったが、伊賀市の有機農業の法人では、話を聞いてみたくなかったが入る隙間もないほど人気があった。伊勢市の中では有機農業は全体的に低い。
- 農林水産省の施策として有機農業として非常に重要視はされている。現在は色々な情勢等あり、今後、化学肥料等に関してはこれまでと同じように使うのは難しくなる。ウクライナ情勢により、随分と肥料の価格も上がっている。これまでは有機農業はコストも高く、手間もかかるので厳しいという話も出ていたが、そこまで肥料の価格が

上がっていると、有機農業が選択肢の1つになってくる可能性が十分ある。有機農法で作った農産物は認定も取れるような形になっている。何より大手の飲食業で有機農法や質の高い農産物を積極的に買ってくれるようなところも出てきている。有機農業をこれから奨励していくことが主流になっていくと思う。ポイントの1つとしては肥料を市内で適切な価格で流通させる。有機肥料の使い勝手の悪いところとしては、肥料成分としては化学肥料に比べて少なくなってくるので手間もかかるし、経験も重要となる。多くの方ができるだけ簡易にICTの技術を使いながら積極的に、また除草剤や普段の資材も使えなくなってくるので変わりにできることの情報共有をし、伊勢市として標準的な作業体系、それに関する助成をしていただき、集積するような仕組みができてくると変わってくるのかもしれない。有機農業については風向きが良くなってきている。特色を出すポイントとして将来的には是非、考えていただきたい。

- 皆様から非常に多くの意見をいただきありがとうございます。是非、今回の見直しの中で盛り込めるものもあったと思うので具体的に考えていただければと思う。
- 特に意見がなければ次の事項に移りたいと思う。

(8) その他

事務局から今後のスケジュール等についての説明があった。

どうもありがとうございます。本件に関して何か質問等ございますか。特にご意見がないようなら、以上をもって第1回伊勢市農村振興基本計画策定委員会を終了します。本日はお集まりいただきありがとうございました。